



あまくさ さきつしゅうらく 4 天草の崎津集落

4. Sakitsu Village in Amakusa

「天草の崎津集落」は、潜伏キリシタンが何を拝みながら信仰を実践したのかを示す4つの集落のうちの一つである。

禁教期の崎津集落の潜伏キリシタンは、大黒天や恵比寿神をキリスト教の唯一神であるデウスに、アワビの貝殻の内側の模様を聖母マリアにそれぞれ見立てるなど、漁村特有の生活や生業に根差した身近なものをキリシタンの信心具として代用するということによって信仰を実践した。

解禁後はカトリックに復帰し、禁教期に祈りをささげた神社の隣接地に教会堂を建てたことにより、彼らの「潜伏」は終わりを迎えた。



全て個人所蔵

崎津集落の潜伏キリシタンは、アワビ貝の内側の模様(左の赤で囲った部分)を「聖母マリア」に見立て、日本の豊漁の神様である大黒天(中央)をキリスト教の神「デウス」として崇拝した。また、白蝶貝を加工してメダイ(右)も制作した。



撮影:池田勉

現在の崎津教会堂は、1934年、「絵踏」が行われた吉田庄屋役宅の跡地に建てられた。これは、「絵踏」が行われた場所にカトリック復帰の象徴となる教会堂を建てたいというハルブ神父の強い願いによるものであった。